拡大する必要があるといわれている。農業機械化の農業基盤づくりや農業経営も他産業と同じような企業としての経営合理化が、要求されることになるものと考えられる。さらに、このような農業の機械化は、伝統的な農村社会の様相もかわり、個人の意識、行動様式から家族生活も激変させることになろう。

技術革新は、また、化学工業の飛躍的な発展を促したが、これらの製品が、大量に農村に流入し、化学肥料、農薬は、万年豊作といわれる現象をもたらしている。

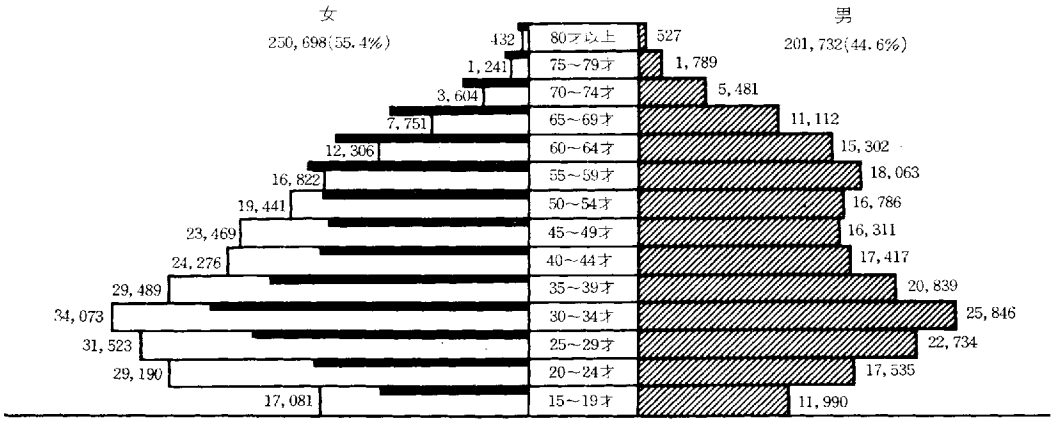
品種改良、飼料の化学的配合など、技術革新は、農業のすべての領域で、大きな、しかも急速な変化を促している。

この動向は、今後、いっそうっよまるものと考えなければならない。とすると農業従事者の資質が、今後の農業近代化を効果的にするか、どうかにひびくことになろう。

(4) 農業就業人口の年齢構成と農業後継者

農業就業者の男女別、年齢階層別の構成状況を示したのが、第20図である。

第20図　就業者の男女別年齢別構成　　(35.10国勢調査による)



農業就業者の男女別構成をみると女子（250,698人、55.4%）は、男子（201,732人、44.6%）より圧倒的に多く、農業就業者の女性化が目立っている。昭和25年における女子の構成比は、52,7%であったのに比して、構成で2.7%の増加を示している。工業化の進行にともなって、昭和35～50年度間に67,000人が他産業に大量に転職することが見込まれているが、男子の離農転職者が、中年層に多く出ると仮定すると、女子の比重はさらに大きくなることになろう。

年齢階層別にみると、30～34才が男女とももっとも多く、年齢の多くなるにつれて減少している。また、30～34才を境にして、年齢の若くなるにつれて、人数は減少している。30～34才をピラミッドの基底として、上下に２つのピラミッドをあわせた形に近くなっている。これは、農業後継者となる若年労働力が、きわめて不足していることを示している。若年労働力の不足は、とくに男子に目立っている。この現象は、逆に女子の増加に拍車をかける結果となり、農業の女性化が、さらにおし進められている。